

令和8年度第1回蕨市交通安全対策会議 会議概要

1 日 時 令和8年8月7日（金）午後2時30分～3時05分

2 会 場 蕨市役所4階大会議室

3 出席者 （敬称略）

委 員：頼高英雄(会長)、古田雄二、大石圭子、本田てい子、植田富美子、齊藤哲也、松本隆男、阿部清枝、池上東二、高頭昇、阿部泰洋、小柴正樹、佐藤則之、外裏雅一、小林順、鈴木昭弘、榎戸晃

委員代理：児玉憲一、秋山泰輝

事務局：加藤宏之(安全安心課長)、小泉卓也(安全安心課自治安全係長)、伊藤考郎(安全安心課自治安全係主査)、田中莞太(安全安心課自治安全係主事)

4 内 容

【開会】

【会長あいさつ】

頼高会長より、日頃の交通事故防止活動に対する感謝の言葉があった。第11次蕨市交通安全計画期間中に、学校周辺を中心とした交通事故多発地区整備事業やスケアード・ストレイト交通安全教室、自転車用ヘルメット購入費補助制度を行ってきた。さらに本年4月からは、自転車の交通反則通告制度（青切符）に関する周知啓発に努めている。また、市内の交通事故状況については、昨年に比べ、物件事故は若干減少しているが、人身事故については増加傾向にあり、特に自転車事故の割合が高いことから、自転車の安全対策が重要な課題となっている。第12次蕨市交通安全計画を策定し、今後更に交通安全対策を進めていきたいとのあいさつがあった。

【自己紹介】

【会議の公開について】

事務局より、傍聴者無しの報告があった。

【議題】

（1）第12次蕨市交通安全計画（案）の概要について

事務局より、資料に基づき説明がされた。

（質問）

委 員： 外国人に対する交通安全教育について、具体的にどのような対策を行う予定か。

事務局： 外国人生活オリエンテーションでの個別説明、日本語学校・街頭キャンペーンでのチラシ配布、市ホームページでの広報等を実施していく。

委 員： 第11次計画の検証結果として、交通事故件数及び死傷者数が減少しているが、主な要因は何か。

古田委員： 特効薬というものはなく、交通関係団体の地道な活動、行政警察の取り組みが浸透した結果だと思われる。具体例では、自転車ヘルメット着用助成金制度により、交通安全に関心を持つ人が増え、減少に繋がったのではと考えている。

（2）その他

○蕨市内の交通事故発生状況について

古田委員より、交通事故発生状況について説明がされた。

(質問)

委員：横断歩道で止まらない自転車が多い。横断歩道で待っている自転車は、サドルにまたいでいる場合は車両、自転車から降りている場合は歩行者の認識でよいか。また、歩行者も横断歩道で一旦止まらずに渡ってくることもある。取り扱いと周知について質問したい。

古田委員：自転車にまたがっていれば車両なので、止まる義務はない。しかし自転車から降りた瞬間に歩行者になるので、車としては注意義務が発生する。車は、自転車が乗用車か歩行者か見極める必要があり、事故が発生した際は、車の方が過失割合が高くなる。互いを思い合って、事故防止に努めていただきたい。

会長：小型モビリティの現状についてはどのようなか。

古田委員：運転するのに安全面で不安を覚えることがある。転倒時の安全対策に関する周知啓発が必要なほか、道路環境の整備が重要になると思われる。

【閉会】